

商工会議所 L O B O（早期景気観測）

—平成12年12月調査結果—

（平成12年12月27日）

○調査期間：平成12年12月14日～20日

○調査対象：全国の394商工会議所が2660業種組合等にヒアリング
（内訳）建設業 392 製造業 646 卸売業 245
小売業 763 サービス業 614

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（DI値を集計）
及び、業界として当面する問題等

※ DI値について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844/7836
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成12年12月調査結果のポイント】

業況DIは10ヵ月ぶりにマイナス40台に低下

- 12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業を除く全業種、特に建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲38.8）よりマイナス幅が3.6ポイント拡大して▲42.4となった。今年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は概ね横ばい傾向で推移したが、10月、11月とマイナス幅が拡大、今回さらに拡大が続き、今年2月以来10ヵ月ぶりにマイナス40台となった。中小企業の景況には低迷感が強まっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。なお、マイナス水準での推移は平成3年4月から117ヵ月、また平成3年9月から112ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。

建設業では、「年末に向け公共工事の発注がやや増えた」（一般工事）との声も一部あるものの、「公共事業は、前年比で工事個所が大幅に減少。今後の発注も見込めない」（一般工事）、「少ない受注の奪い合いによる競争激化、受注単価の低下等により状況は一段と厳しい」（建築工事）など、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。製造業では、「災害復旧工事により多少の好転があった」（セメント・同製品）との声がある一方、特に、これまで比較的好調であった電気機械、一般機械、鉄鋼等で厳しさが増しており、「IT関連の動きにブレーキがかかり始めている」（電子部品）、「少ロットでの受注が多く効率を悪くしている」（金属加工機械）、「9、10月は比較的に売上が回復していたが、ここに来てまた売上減少になってきた。加工単価の引下げ要求もある。受注についても短納期の物は少しあるが、安定した受注が見込めない」（暖房装置・配管）などの声が寄せられている。卸売業では、先月までの2ヵ月連続悪化の反動から、業況DI値のマイナス幅は多少縮小しているものの、「販売額・数量前年並み。但し、単価が低く、収益面で厳しい状況」（繊維品）、「消費不況、海外生産の増加のダブルパンチで生産、販売面とも大変厳しい経営環境」（衣服・日用品）など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられた。小売業では、「前年より低気温で推移しており、冬物衣料は順調に売上を伸ばしている」（百貨店）、「多少動きが出てきたようだ」（商店街）などの声が寄せられる一方、「競合店出店により売上が減少」（商店街）、「中心商店街の客離れが目立つ。各店舗は売上減少しているところが多い」（商店街）、「単価下落傾向に歯止めがかからず、販売点数は増加しているが単価ダウンの方が大きく、売上ダウン」（百貨店）などの厳しい指摘も多く寄せられている。サービス業では、「インターネット関係の仕事が多い」（ソフトウェア）、「IT関連の企業からの派遣需要が引き続き堅調に推移」（人材派遣）といった声がある一方、「フランチャイズ店舗が増加し、厳しい状況」（そば・うどん店）、「忘年会シーズンでも予約はさっぱり、越年も厳しい状況」（食堂・レストラン）、「客の来店頻度が落ちている」（理容）、「期待していた忘年会も今年は前年より少なく依然厳しい」（旅館）といった指摘も多く寄せられている。

売上面では、卸売業を除く全業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上DIはマイナス幅が2.2ポイント拡大して▲37.1となった。採算面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことから、全業種合計の採算DIはマイナス幅が3.8ポイント拡大して▲41.1となった。

- 向こう3ヵ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲37.9と、昨年同時期の先行き見通し（▲36.2）に比べてやや厳しい見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、年末年始の消費動向や、年明け後の補正予算による公共工事の受注動向についての関心が高い。

【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業を除く全業種、特に建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲38.8）よりマイナス幅が3.6ポイント拡大して▲42.4となった。今年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は概ね横ばい傾向で推移したが、10月、11月とマイナス幅が拡大、今回さらに拡大が続き、今年2月以来10ヵ月ぶりにマイナス40台となった。中小企業の景況には低迷感が強まっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。

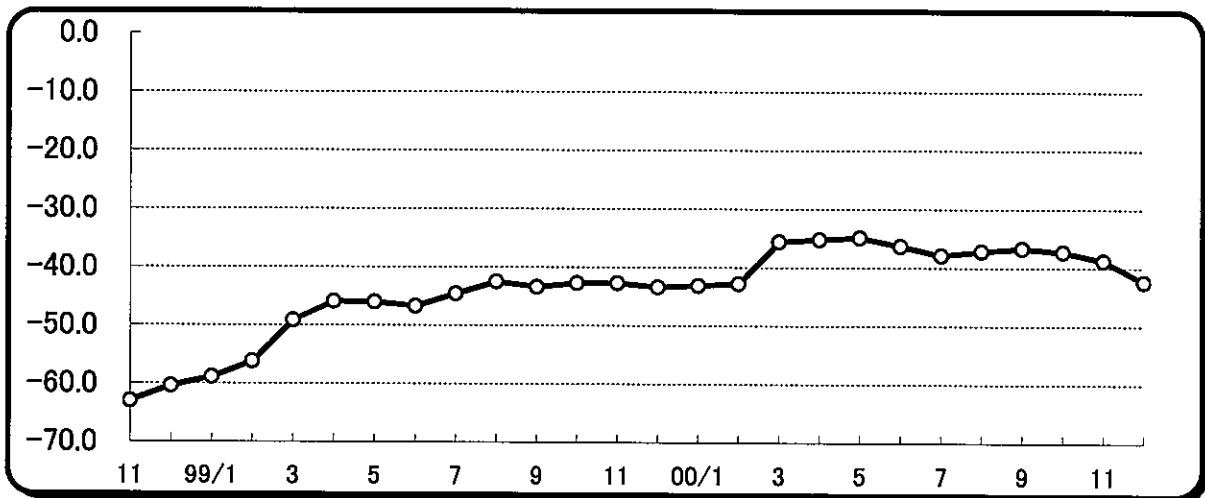
○ 向こう3ヵ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲37.9と、昨年同時期の先行き見通し（▲36.2）に比べてやや厳しい見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

| | 12年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1～3月 |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 全産業 | ▲37.9 | ▲37.2 | ▲36.7 | ▲37.3 | ▲38.8 | ▲42.4 | ▲37.9 (▲36.2) |
| 建設 | ▲46.7 | ▲47.6 | ▲50.6 | ▲49.6 | ▲50.3 | ▲58.0 | ▲50.9 (▲41.3) |
| 製造 | ▲23.3 | ▲24.9 | ▲26.5 | ▲20.4 | ▲23.9 | ▲28.3 | ▲31.0 (▲28.1) |
| 卸売 | ▲46.7 | ▲43.8 | ▲34.2 | ▲41.5 | ▲47.2 | ▲44.9 | ▲37.2 (▲28.3) |
| 小売 | ▲45.8 | ▲44.2 | ▲45.5 | ▲46.9 | ▲46.9 | ▲48.9 | ▲39.2 (▲44.2) |
| サービス | ▲34.2 | ▲31.8 | ▲28.5 | ▲34.2 | ▲33.7 | ▲38.4 | ▲35.6 (▲34.5) |

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年12月の先行き見通しDI<以下同じ>

≪業況DI（全産業・前年同月比）の推移≫



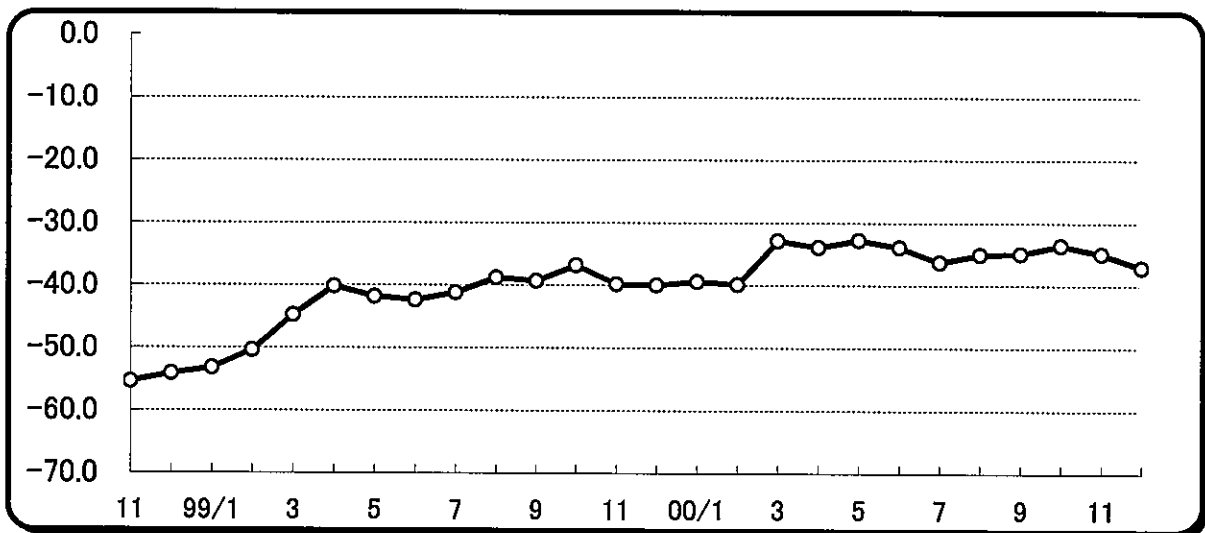
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、卸売業を除く全業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上DIはマイナス幅が2.2ポイント拡大して▲37.1となった。
- 向こう3ヵ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲33.7と、昨年同時期の先行き見通し（▲33.8）とほぼ同様の見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

| | 12年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1～3月 |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全産業 | ▲ 36.3 | ▲ 35.1 | ▲ 34.9 | ▲ 33.6 | ▲ 34.9 | ▲ 37.1 | ▲ 33.7 (▲ 33.8) |
| 建設 | ▲ 39.6 | ▲ 42.1 | ▲ 48.2 | ▲ 44.2 | ▲ 48.5 | ▲ 50.2 | ▲ 46.5 (▲ 38.5) |
| 製造 | ▲ 19.3 | ▲ 18.9 | ▲ 18.1 | ▲ 11.9 | ▲ 13.8 | ▲ 17.1 | ▲ 25.2 (▲ 26.7) |
| 卸売 | ▲ 48.5 | ▲ 41.0 | ▲ 36.0 | ▲ 46.3 | ▲ 42.3 | ▲ 39.1 | ▲ 40.4 (▲ 25.9) |
| 小売 | ▲ 45.9 | ▲ 48.2 | ▲ 47.1 | ▲ 43.9 | ▲ 46.6 | ▲ 49.6 | ▲ 34.7 (▲ 42.7) |
| サービス | ▲ 35.7 | ▲ 29.3 | ▲ 28.5 | ▲ 32.4 | ▲ 31.2 | ▲ 33.9 | ▲ 30.8 (▲ 30.3) |

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



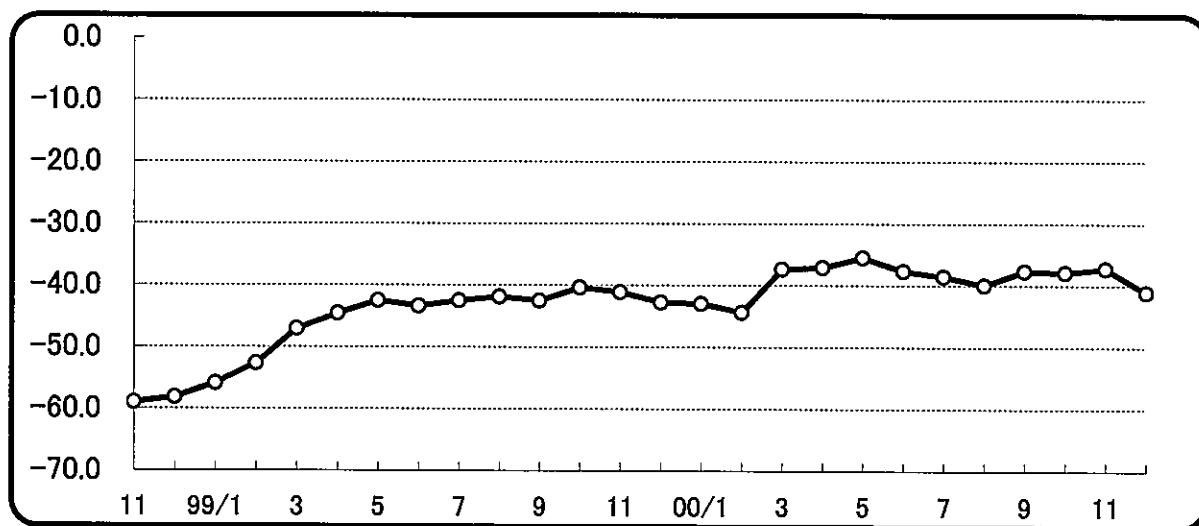
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が3.8ポイント拡大して▲41.1となった。
- 向こう3ヵ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲33.7と、昨年同時期の先行き見通し(▲35.5)に比べて、若干改善への期待を示す見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

| | 12年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1～3月 |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全産業 | ▲ 38.6 | ▲ 40.0 | ▲ 37.7 | ▲ 37.9 | ▲ 37.3 | ▲ 41.1 | ▲ 33.7 (▲ 35.5) |
| 建設 | ▲ 46.5 | ▲ 52.1 | ▲ 54.4 | ▲ 55.1 | ▲ 51.9 | ▲ 58.0 | ▲ 46.5 (▲ 40.8) |
| 製造 | ▲ 28.8 | ▲ 30.4 | ▲ 28.0 | ▲ 26.3 | ▲ 26.7 | ▲ 30.1 | ▲ 26.9 (▲ 31.8) |
| 卸売 | ▲ 43.0 | ▲ 42.7 | ▲ 43.8 | ▲ 45.7 | ▲ 38.0 | ▲ 41.0 | ▲ 36.5 (▲ 29.7) |
| 小売 | ▲ 42.6 | ▲ 45.2 | ▲ 40.4 | ▲ 39.0 | ▲ 41.6 | ▲ 46.8 | ▲ 35.3 (▲ 43.6) |
| サービス | ▲ 37.0 | ▲ 34.5 | ▲ 31.5 | ▲ 34.7 | ▲ 33.2 | ▲ 34.9 | ▲ 29.5 (▲ 28.0) |

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

| | 12年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1~3月 |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|----------------|
| 全産業 | ▲ 23.6 | ▲ 23.4 | ▲ 25.6 | ▲ 25.7 | ▲ 25.2 | ▲ 28.5 | ▲ 24.9 |
| 建設 | ▲ 30.8 | ▲ 32.4 | ▲ 37.0 | ▲ 32.4 | ▲ 32.1 | ▲ 38.3 | ▲ 31.5 |
| 製造 | ▲ 20.3 | ▲ 20.3 | ▲ 23.5 | ▲ 22.1 | ▲ 20.8 | ▲ 27.6 | ▲ 23.5 |
| 卸売 | ▲ 22.2 | ▲ 20.8 | ▲ 19.7 | ▲ 21.3 | ▲ 23.1 | ▲ 25.2 | ▲ 27.4 |
| 小売 | ▲ 21.6 | ▲ 22.0 | ▲ 25.2 | ▲ 26.1 | ▲ 27.4 | ▲ 28.9 | ▲ 23.4 |
| サービス | ▲ 25.2 | ▲ 23.2 | ▲ 22.8 | ▲ 26.6 | ▲ 23.5 | ▲ 23.1 | ▲ 23.0 |

$$DI = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比DI】 サービス業を除く全業種で悪化超感強まる。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

| | 12年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1~3月 |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 全産業 | 1.3 | 0.3 | ▲ 0.3 | 0.4 | ▲ 0.2 | ▲ 0.2 | ▲ 1.6 (▲ 3.1) |
| 建設 | 0.4 | 0.3 | ▲ 0.4 | 0.0 | 2.1 | ▲ 1.5 | ▲ 1.1 (▲ 5.3) |
| 製造 | ▲ 4.9 | ▲ 5.2 | ▲ 6.6 | ▲ 3.6 | ▲ 6.0 | ▲ 4.9 | ▲ 7.8 (▲ 9.0) |
| 卸売 | 7.3 | 7.3 | 9.3 | 12.8 | 4.3 | 7.1 | 5.1 (1.2) |
| 小売 | 9.2 | 7.1 | 6.6 | 4.6 | 8.0 | 6.8 | 5.8 (3.9) |
| サービス | ▲ 3.5 | ▲ 5.2 | ▲ 6.1 | ▲ 5.1 | ▲ 7.8 | ▲ 6.1 | ▲ 7.2 (▲ 5.8) |

$$DI = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比DI】 全業種合計では同水準。製造業、卸売業、サービス業で下落超感強まる。

【先行き見通しDI】 サービス業を除く全業種で、昨年同時期に比べて下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

| | 12年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1～3月 |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全産業 | ▲ 12.0 | ▲ 10.1 | ▲ 8.6 | ▲ 9.1 | ▲ 9.5 | ▲ 11.0 | ▲ 11.5 (▲ 12.0) |
| 建設 | ▲ 24.2 | ▲ 24.1 | ▲ 21.3 | ▲ 20.9 | ▲ 20.6 | ▲ 20.9 | ▲ 18.1 (▲ 23.0) |
| 製造 | ▲ 9.8 | ▲ 7.6 | ▲ 6.6 | ▲ 9.1 | ▲ 10.4 | ▲ 13.0 | ▲ 16.1 (▲ 14.9) |
| 卸売 | ▲ 13.9 | ▲ 14.6 | ▲ 10.6 | ▲ 11.6 | ▲ 9.2 | ▲ 10.9 | ▲ 12.9 (▲ 7.7) |
| 小売 | ▲ 10.3 | ▲ 5.8 | ▲ 7.0 | ▲ 6.6 | ▲ 5.4 | ▲ 6.4 | ▲ 9.0 (▲ 8.5) |
| サービス | ▲ 7.0 | ▲ 6.4 | ▲ 3.5 | ▲ 3.3 | ▲ 5.7 | ▲ 7.7 | ▲ 4.5 (▲ 8.1) |

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で過剰超感強まる。

【先行き見通しD I】建設業、サービス業で、昨年同時期に比べて過剰超感が弱まる見通し。

【平成12年12月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「年末に向け公共工事の発注がやや増えた」（下館・一般工事）、「多少動きが出てきたようだ」（久留米・商店街）、「インターネット関係の仕事が多い」（高岡・ソフトウェア）などの声がある一方で、先行きの発注についての不透明感の指摘が多く寄せられている。建設業では、「公共事業は、前年比で工事個所が大幅に減少。今後の発注も見込めない」（尾道・一般工事）、「民間需要は未だ水面下。前途は厳しい」（土岐・一般工事）、「受注・手持ち高ともに減少している。受注単価もやや下落しており、採算厳しい。先行きについては見当がつかない」（倉敷・管工事）などの声が寄せられている。製造業では、「IT関連の動きにブレーキがかかり始めている」（伊那・電子部品）、「受注についても短納期の物は少しあるが、安定した受注が見込めない」（姫路・暖房装置、配管）などの声が寄せられている。また、サービス業からは、忘年会・新年会等、団体の予約が少ないなどの声が寄せられている。

○ 競争激化

建設業からは、「少ない受注の奪い合いによる競争激化、受注単価の低下等により状況は一段と厳しい」（山形・建築工事）、「例年と比べ公共工事の発注率が低下。公共・民間工事とも低価格競争が激しく、採算度外視の状況」（恵庭・一般工事）といった声が寄せられている。製造業からは、「安価な輸入品が増加傾向にあり、非常に厳しい状況が続いている」（静岡・ゴムプラスチック履物）、「海外生産国の生産増加により、国内向けの生産及び販売が低迷している」（燕・金物類）、「輸入規制と景気好転がないと産地が壊滅しかねない様相である」（五泉・ニット、シャツ）など、海外製品等との競争激化についての指摘が多く寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「消費不況、海外生産の増加のダブルパンチで生産、販売面とも大変厳しい経営環境」（榎原・衣服、日用品卸）、「大型店のオープン及び低価格競争による売上の低調が続いている」（浜松・衣服、日用品卸）、「中心商店街の客離れが目立つ。各店舗は売上減少しているところが多い」（姫路・商店街）、「競合の激化による商圈の縮小」（魚津・各種商品小売）、「県外からの大型店出店による競合激化。昨年の旧大法下における、駆け込み申請案件のオープンが相次ぐ」（高知・各種商品小売）、「競合の出店の影響大」（蕨・百貨店）、「フランチャイズ店舗が増加し、厳しい状況である」（山形・そば、うどん店）、「前年度対比で売上は減少している。加えて価格競争が激しく採算面も悪化している」（姫路・洗濯）、「店舗数が一段と多くなり、同じマーケットを奪い合う構図となってきた。今後一層激しくなることが予想される」（山形・美容）など、顧客獲得競争の激化による採算面への影響を懸念する声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

| 年 月 | 景気キーワード | | |
|--------|---------|---------|--------|
| 12年10月 | 競争激化 | 消費単価の低下 | 原油価格高騰 |
| 11月 | 競争激化 | 消費単価の低下 | |
| 12月 | 先行き不透明感 | 競争激化 | |

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

| 産 業 | 概 況 |
|------|--|
| 建 設 | 業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大しており、特に業況D Iは7.7ポイント、採算D Iは6.1ポイントと、それぞれ大幅に拡大している。「年末に向け公共工事の発注がやや増えた」(一般工事)との声も一部あるものの、「公共事業は、前年比で工事個所が大幅に減少。今後の発注も見込めない」(一般工事)、「少ない受注の奪い合いによる競争激化、受注単価の低下等により状況は一段と厳しい」(建築工事)など、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。 |
| 製 造 | 業況・売上・採算D Iとも2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「災害復旧工事により多少の好転があった」(セメント・同製品)との声がある一方、特に、これまで比較的好調であった電気機械、一般機械、鉄鋼等で厳しさが増しており、「IT関連の動きにブレーキがかかり始めている」(電子部品)、「少ロットでの受注が多く効率を悪くしている」(金属加工機械)、「9、10月は比較的に売上が回復していたが、ここに来てまた売上減少になってきた。加工単価の引下げ要求もある。受注についても短納期の物は少しあるが、安定した受注が見込めない」(暖房装置・配管)などの声が寄せられている。 |
| 卸 売 | 採算D Iは前月水準に比べてマイナス幅が拡大する一方、業況・売上D Iはマイナス幅が縮小している。特に、業況D Iについては、先月までの2ヵ月連続悪化の反動からマイナス幅は多少縮小しているものの、「販売額・数量前年並み。但し、単価が低く、収益面で厳しい状況」(繊維品)、「消費不況、海外生産の増加のダブルパンチで生産、販売面とも大変厳しい経営環境」(衣服・日用品)など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられた。 |
| 小 売 | 業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「前年より低気温で推移しており、冬物衣料は順調に売上を伸ばしている」(百貨店)、「多少動きが出てきたようだ」(商店街)などの声が寄せられる一方、「競合店出店により売上が減少」(商店街)、「中心商店街の客離れが目立つ。各店舗は売上減少しているところが多い」(商店街)、「単価下落傾向に歯止めがかからず、販売点数は増加しているが単価ダウンの方が大きく、売上ダウン」(百貨店)などの厳しい指摘も多く寄せられている。 |
| サービス | 業況・売上・採算D Iとも2ヵ月ぶりに前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「インターネット関係の仕事が多い」(ソフトウェア)、「IT関連の企業からの派遣需要が引き続き堅調に推移」(人材派遣)といった声がある一方、「フランチャイズ店舗が増加し、厳しい状況」(そば・うどん店)、「忘年会シーズンでも予約はさっぱり、越年も厳しい状況」(食堂・レストラン)、「客の来店頻度が落ちている」(理容)、「期待していた忘年会も今年は前年より少なく依然厳しい」(旅館)といった指摘も多く寄せられている。 |

(参考)

【ブロック別概況】

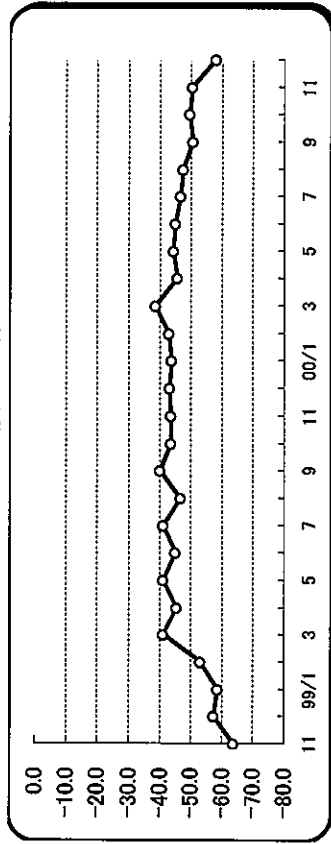
- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。また、平成9年12月以来3年ぶりに、全ブロックで前月水準に比べてマイナス幅が拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（1月～3月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。東北、関東、東海を除く全ブロックで、昨年同時期の先行き見通しに比べて厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

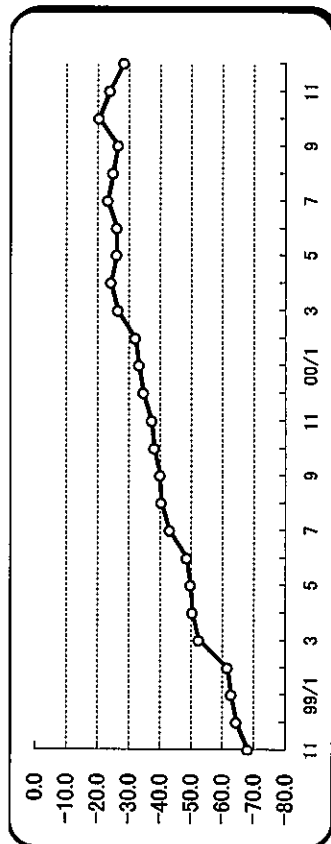
| | 12年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1月～3月 |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| 全 国 | ▲ 37.9 | ▲ 37.2 | ▲ 36.7 | ▲ 37.3 | ▲ 38.8 | ▲ 42.4 | ▲ 37.9 (▲ 36.2) |
| 北海道 | ▲ 40.0 | ▲ 38.5 | ▲ 29.1 | ▲ 33.1 | ▲ 35.3 | ▲ 43.4 | ▲ 39.3 (▲ 30.9) |
| 東 北 | ▲ 34.4 | ▲ 33.6 | ▲ 32.3 | ▲ 35.8 | ▲ 35.0 | ▲ 39.3 | ▲ 40.1 (▲ 40.9) |
| 北陸信越 | ▲ 30.4 | ▲ 29.2 | ▲ 38.9 | ▲ 34.8 | ▲ 39.7 | ▲ 42.4 | ▲ 45.7 (▲ 24.0) |
| 関 東 | ▲ 38.2 | ▲ 36.7 | ▲ 33.5 | ▲ 35.4 | ▲ 34.0 | ▲ 37.8 | ▲ 29.3 (▲ 35.5) |
| 東 海 | ▲ 37.3 | ▲ 34.0 | ▲ 33.1 | ▲ 35.3 | ▲ 40.6 | ▲ 40.9 | ▲ 35.2 (▲ 45.5) |
| 近 畿 | ▲ 42.7 | ▲ 37.9 | ▲ 46.0 | ▲ 41.5 | ▲ 45.9 | ▲ 47.3 | ▲ 41.8 (▲ 40.4) |
| 中 国 | ▲ 34.6 | ▲ 39.5 | ▲ 37.3 | ▲ 37.4 | ▲ 39.0 | ▲ 44.5 | ▲ 40.9 (▲ 40.2) |
| 四 国 | ▲ 48.1 | ▲ 54.9 | ▲ 46.2 | ▲ 49.1 | ▲ 45.7 | ▲ 48.6 | ▲ 45.0 (▲ 35.4) |
| 九 州 | ▲ 36.1 | ▲ 37.3 | ▲ 35.3 | ▲ 37.5 | ▲ 38.4 | ▲ 43.7 | ▲ 37.9 (▲ 32.4) |

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

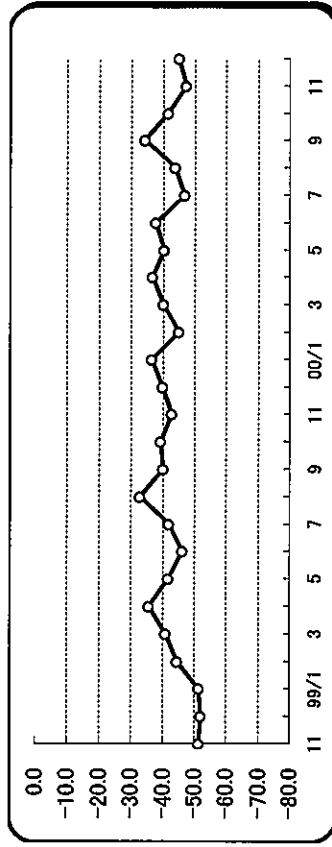
建設業



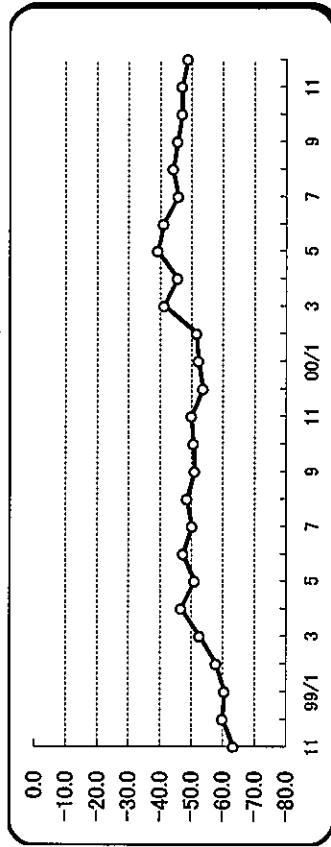
製造業



卸売業



小売業



サービス業

